

紙の文化博物館 春季特別展

# すかしで魅せる 越前紙漉図説

～紙漉き人の想い～

令和**8**年 **4**月**22**日(水)  
～**6**月**29**日(月)

会 場 / 越前和紙の里 紙の文化博物館

開館時間 / 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休 館 日 / 毎週火曜日(火曜日が休祝日の場合は開館)

入 館 料 / 一般300円、高校生以下無料、団体200円(15人以上)

※入館料は、紙の文化博物館・卯立の工芸館との共通

※身体障害者手帳、療育手帳または精神障害者保険福祉手帳  
の交付を受けている方は150円

主 催 / 越前市

特別協力 / 独立行政法人国立印刷局



越前和紙は、日本の紙幣の歴史と深い結びつきを持っています。福井藩札や太政官札の用紙に採用されたことを契機に、越前の紙漉き職人たちは東京に招聘され、紙幣製造の基礎となる技術を伝えました。黒透かしの発見も、越前の職人によるものといわれています。

現在、日本銀行券を製造する国立印刷局では、偽造防止技術と美しいデザインを融合させた製品がつくられています。その高度な技術を支えるのが、専門職人である「工芸官」です。工芸官は技術を磨くために、「すかし」の技術を駆使した精緻な「すき入れ紙」を制作しています。

本展では、明治期に小林忠蔵が著した『越前紙漉図説』をもとに、国立印刷局の工芸官が現代の紙漉き工程を表現した現代版『紙漉図説』とした作品を中心にご紹介するとともに、紙づくりに携わる人たちの強い想いや越前和紙の魅力をお伝えします。

越前和紙と紙幣の歴史、そして工芸官が受け継ぐ繊細な技の世界を、ぜひご覧ください。



「ちりより」



「技を繋ぐ」

絵合わせすかし「むかしむかしあるところに」

■ 関連イベント

■ 国立印刷局工芸官によるギャラリートーク

国立印刷局の工芸官が、展示作品についてわかりやすく解説します。

日 時	1	2	3
5月9日(土)	10:00～11:00	13:30～14:30	15:00～16:00
	10:00～11:00	13:30～14:30	
	※各回とも内容は同じです。		
申し込み	不 要		
参加費	無 料		



北陸新幹線

JR越前たけふ駅下車

下車後タクシーまたはレンタカー(10分)

レンタサイクル(約20分)

JR特急・ハピラインふくい

JR大阪駅～敦賀駅～武生駅

JR名古屋駅～敦賀駅～武生駅

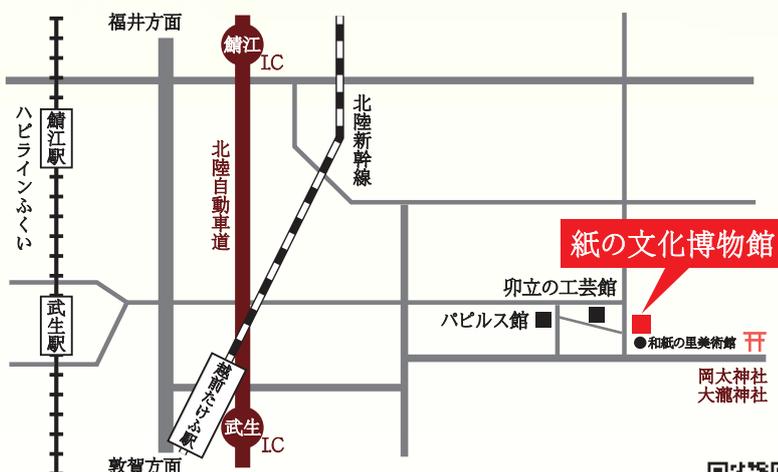
ハピライン武生駅下車後、タクシーで20分

福鉄バス南越線または池田線で30分『和紙の里』下車後徒歩3分



自動車

米原JCT～武生IC(北陸自動車道1時間) 武生ICから10分



越前和紙の里 紙の文化博物館

〒915-0232 福井県越前市新在家町11-12

TEL: 0778-42-0016 FAX: 0778-42-3260

https://www.echizenwashi.jp/museum/

